

リスクマネジメント

Nittoグループは、経営や事業活動に影響を及ぼす共通リスクを抽出し、優先順位をつけて予防・回避・対策・転化などの措置を講じてきました。しかし、事業のグローバル化に伴い、地域あるいは個々の会社特有の労務問題、情報漏えい、法令違反、自然災害、事故、犯罪などのリスクを見極めて対策を講じる必要が生じています。

2011年度以降は管理職のリスク認識を高めるために、毎年グループ全体で2000名を超える管理職を対象とした42

項目のリスクアンケートを実施しています。そして、管理職CSRワークショップを通してフィードバックを行い、拠点・グループ会社特有のリスクについて議論し対策につなげています。事業や地域の特性によってリスクの度合いは異なり、管理職一人ひとりが優先的に取り組むべき課題を認識する場になっています。

グループ共通のリスクについては、情報セキュリティ委員会や製品リスクマネジメントに関する専門委員会などを設け対応しています。

基本方針

Nittoグループは4つの基本方針を掲げ、「減災(災害予防、被害軽減)」と「早期復旧」を両輪として、事業継続マネジメント(BCM)に取り組んでいます。



BCM体制

サプライチェーンも含めた調達、物流、製造、環境、安全、ITの各ワーキンググループが、3か月に一度、それぞれの事業継続マネジメント体制とあわせて機能連携の確認をしています。また、事業継続に大きな影響を及ぼす恐れのある地震、パンデミック、大停電などに備え、事業継続計画を策定しており、重要な決議事項は管掌取締役を長とする危機管理委員会で審議します。

また、有事の際に司令塔となる災害対策本部の訓練を定期的に行い、対応力の向上に努めています。訓練は、拠点個別での実施にとどまらず、Nitto本社との連携訓練まで多岐にわたり、経営陣も参加しています。

防災・減災のために監視システムを一元化

Nitto豊橋事業所は、どこで何が起きているのか構内各所の様子を常時集中監視し、有事の際には司令塔となる防災センターを2014年10月24日に整備しました。翌週には、さっそく大規模地震を想定した訓練を行い、センターの機能を確認しました。

ほかにも亀山事業所など主要な生産拠点に防災センターを設置し有事に備えています。



防災センターでの訓練